

チャレンジ支援事業

ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞

日本のスポーツを支える「縁の下の力持ち」を表彰

スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した「縁の下の力持ち」（人物・団体）を奨励する表彰制度です。第16回スポーツチャレンジ賞には、義足エンジニアの遠藤謙氏を選出しました。

遠藤氏は「走りたい」という義足ユーザーが直面するさまざまな課題の解消のため、義肢装具士やパラアスリートと連携しながら「誰もが走れる社会」の実現にチャレンジ。各種体験会の開催や、貸し出し用ブレードを備えた「ギソクの図書館」の開設、また低価格ブレードの開発など、さまざまなアプローチで“Blade for All”を目指しています。



●後援：公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会

第15回 表彰について

第15回受賞者 能瀬さやか氏 | 表彰式／受賞記念事業



2023年6月2日、東京・御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターで「第15回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 表彰式」を開催しました。また、同日、受賞記念事業としてシンポジウム「女性アスリートの健康を考える」を実施し、競泳元日本代表の伊藤華英さん、日本パラリンピック委員会委員長の河合純一さん、日本郵政グループ女子陸上部監督の高橋昌彦さんらがパネリストとして参加し、女性スポーツ医学の知見や女性アスリートの啓発を一般女性のヘルスケア向上に結び付けていく取り組み等について議論・検討しました。

一方、当財団ホームページでは、能瀬氏のチャレンジの軌跡をスペシャルコンテンツ「BACK STORIES」で紹介しました。



Yearly Digest

2023/4 — 2024/3
公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 2023年度の主な事業活動の実績

YMFS
ヤマハ発動機スポーツ振興財団

2023年度
トピック

受賞記念事業としてシンポジウムを開催 ～ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞～

表彰制度の制定から15年を迎えたことを機に、リニューアルした「ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」。2023年度は初の受賞記念事業としてシンポジウム「女性アスリートの健康を考える」を実施し、受賞者である能瀬さやか氏が基調講演を行った後、トップアスリートとして活躍した経験をもつ有識者や、現場指導者をパネリストに迎え、各種課題の改善に向けた活発な意見交換を行いました。



チャレンジ支援事業

スポーツチャレンジ助成

体験助成15件・研究助成16件のチャレンジャーを支援

スポーツを通じて世界に羽ばたく逞しい人材の育成を目的とする本事業は、2023年度（第17期）チャレンジャーとして31名を助成。成長プロセスを重視する独自のサポートプログラムによって、それぞれの夢・目標の実現を支援しました。

半期を終えた10月には、上半期のチャレンジを振り返る「中間報告会」を実施。審査委員から激励や助言を受けて、下半期の活動につなげました。また、年度末の3月23日・24日には、第17期生・第18期生が一堂に会する「第17回YMFSスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」（東京・日本青年館）を開催。

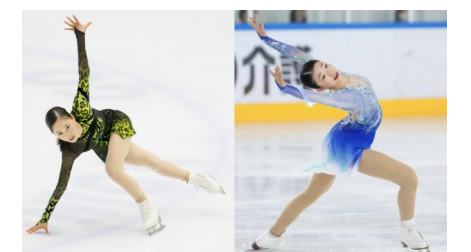
これまで同様、成果報告会や修了式等の各種式典に加え、能瀬さやか氏による特別講演や、日本オリンピックミュージアム見学ツアー等のプログラムも実施し、分野・領域を超えた「つながりの価値」を実感しながら、笑顔のあふれる相互刺激発場の場となりました。



年度末の成果報告会。すべてのチャレンジャーが、チャレンジの軌跡とその成果を報告



第18期生30名を代表して、体験助成の黒山陣さん（トライアル競技）が力強く決意を表明



特に優れたチャレンジャーとして、第17期生の吉田陽菜さん（左）と千葉百首さんが優秀賞を受賞



日本青年館で2日間にわたって開かれた「YMFSスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」

情報発信

社会活性化への寄与を目的に各種情報を発信

スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与するため、事業活動などに関する情報を広く発信しています。ホームページの運営のほか、ニュースリリース発行（11件）、YMFS通信配信（約850か所）、年間事業報告書発行（700部）、調査研究報告書発行（1,000部）等を行いました。



掲載情報の詳細については、ウェブサイトをご覧ください。

www.ymfs.jp



スポーツ体験促進事業

ジュニアヨットスクール葉山

安全対策をとりながら、すべてのスクール活動を再開

心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成のために、神奈川県葉山町を拠点として通年型のヨットスクールを運営しています。2023年度は、15名のスクール生を対象に毎月2～3回の指導を行いました。これまで同様、セーリング指導、水辺活動・安全対策等に加え、近年では葉山周辺で開かれる大会に積極的に参加するなど、より総合的な視点での指導プログラムを実施しています。また、水辺の安全講習会や浜名湖での夏合宿（4泊5日）を含め、計画していたすべてのプログラムを実施しました。



2023年度は15名のスクール生が活動。年間24回の通常講習に加え、各種大会等にも参加した

第32回セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖

早春の浜名湖で全国のジュニア・ユースセーラーが競う

3月22～24日の3日間、静岡・三ヶ日青年の家を会場に「セーリング・チャレンジカップIN浜名湖」を開催しました。大会ではOP初級、OP上級、ILCA4級、ILCA6級、4クラスが開かれ、全国から集まった14団体・50名（艇）のジュニア・ユース世代のセーラーたちが、早春の浜名湖で日頃磨いた腕を競いました。



全国から14団体・50名のジュニア・ユースセーラーが出場



力を合わせて取り組んだマリーナの清掃活動



ライフセーバーの指導による水辺の安全講習会



4年ぶりに実施した浜名湖で夏合宿



OP級・ILCA級合わせて4クラスを開催



2日目の終了後に全クラス対象の特別講義を実施



第32回セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖は、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しました。

第35回全国児童 自然体験絵画コンテスト

全国の幼稚園・学校・団体から応募総数8,718点

自然の中で発見・体験したことを表現する絵画コンテストです。自然体験の機会を創出するとともに、創作活動を通じて豊かな感性を育むことを目的に実施しています。本年度は全国の幼稚園・小学校・団体等から合わせて8,718点の作品が寄せられ、入賞作品24点と入選作品286点を決定しました。審査員長の国広富之さん（俳優・画家）は、「日本の自然は美しい。子どもたちがこの美しい自然の中で素晴らしい体験ができるよう、私たち大人が頑張ってこの自然を残していかなければならない」と講評しました。なお、入賞作品は当財団のホームページで紹介するとともに、ジャパンインターナショナルポートショー2024の会場に展示され、多くの来場者の目を楽しませました。

※2022年度までは「全国児童 水辺の風景画コンテスト」として実施

- 協賛：三井住友海上火災保険株式会社、マルマン株式会社、株式会社ワイズギア
- 特別協賛：ヤマハ発動機株式会社
- 後援：文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、一般社団法人日本マリン事業協会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、一般社団法人日本マリーナ・ビーチ協会、NPO法人ジャパンゲームフィッシュ協会、独立行政法人国立青少年教育振興機構、一般財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会



国広富之審査員長と入賞作品（最終審査会）



スポーツ教材の提供

全国120の幼稚園・学校・団体にスポーツ教材を提供

子どもたちのスポーツ機会の充実を目的に、全国の幼稚園、小中学校、特別支援学校等を対象に展開している「スポーツ教材の提供」に、2023年度は582件（前年度663件）の応募が寄せられました。4月27日には（公財）日本スポーツ協会の泉正文副会長による厳正な抽選会を行い、当選した計120の幼稚園や学校、団体にポッチャボールセット、タグラグビーセットを提供しました。教材の提供先には活用報告書の提出を求め、模範的な活用事例については当財団ホームページで紹介し、社会啓発に努めています。



（公財）日本スポーツ協会の泉正文副会長による抽選会

ユニバーサル・スポーツ体験会 チャレンジ！ユニ★スポ

静岡県内の小中学校10校で体験会を開催

5年間・約4,200人を対象とした調査結果を報告

「チャレンジ！ユニ★スポ」は、障害者スポーツとして生まれた競技を楽しむユニバーサル・スポーツの体験会です。スポーツを通じて多様性への理解を深める機会として、2023年度は静岡県内の小中学校10校で開催し、児童・生徒、教員合わせて685人が参加しました。本事業は、学術調査を兼ねて実施しており、体験会の前後に児童に対するアンケート調査を行っています。5年間・約4,200人に実施した体験授業の結果をまとめ、アダプテッド意識の変容についての調査結果を報告しました。



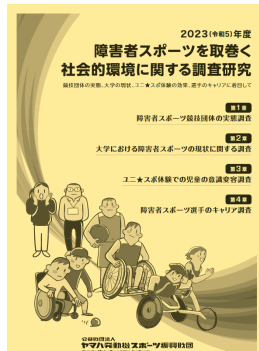
学術調査を兼ねて10校で体験授業を実施

調査研究

障害者スポーツの調査研究成果を報告書とシンポジウムで社会に還元

スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的な課題の解決に寄与するため、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究を行い、その成果の社会活用を促進する活動を行っています。

調査報告書「障害者スポーツを取巻く社会的環境に関する調査研究 ～競技団体の実態、大学の現状、ユニ★スポ体験の効果、選手キャリアに着目して～」を発行。当財団ホームページにも掲載



2024年2月17日に、東京・御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターで、シンポジウム「障害者スポーツ競技団体の実情 ～東京2020パラリンピック終了後の課題と今後の展望～」を開催